タイトル：2023 年度 研究セミナー（第 24 回）
日時：2023 年 12 月 23 日（土）～24 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階マルチメディア会議室（304）

「オスマン・シオニストのユダヤ民族意識と国民観―帝国における民族主義と公民的統合両立の試み（1908～22）」

岩元 恕文（九州大学大学院）

私は 2020 年にも、本セミナーでオンラインにて報告させて頂きました。今回はそれから 3 年ぶりの参加となり、かつトルコ共和国での留学終了後初の日本語での発表となりました。今回の報告では、博論の構想とその一章分の内容を報告しました。

当初、私は本セミナーに参加するかどうか悩んでいました。今回報告した内容には、十分に練りあがっていない部分があり、また論をどう展開するのかについても参加直前まで悩んでいたからです。おそらく、本セミナーへの参加を検討している人々の中には、今の内容で発表しても大丈夫なのかと悩む人、あるいは私と似たような悩みを抱えている人もいるかと思います。結論から言えば、私は参加して本当によかったと自信を持って言えます。

研究を進めるためには、アイデアや構想を形にして発表し、それに対する批評を受けて更に精度を高めていくことが欠かせません。そして本セミナーでは、一人につき計 2 時間（発表時間 1 時間と討論 1 時間）の時間が用意されています。国内外の学会・研究会で、これだけ長い時間をかけて研究内容を発表・討論できる場はほとんどありません。1 時間で自分の構想・方法論を様々な専門を持つ参加者・先生方に向けて話し、更に 1 時間かけて皆で徹底的に議論していく。この過程で私は、自分がこれまで気が付かなかったことに気が付き、更にこれまで抽象的だったアイデアや構想をより具体的な形にすることができました。セミナーを終えた後は、自分の問題設定のやり方をどうやってより良くするか、どの時期のどの史料を使うべきか等の様々な発見があり、改めて博論執筆への意欲が湧きました。博論を進めている皆さんは、ぜひ早い段階で参加して、アイデアや構想を発表することを強くおすすめします。

加えて、実際に博論を執筆中の参加者、あるいは執筆した先輩方の話を聴くことも、自分を見つめ直す上で大変有益でした。一言で「博論執筆」と言っても、いかに執筆を進め、どのようなライフプランを構築していくのかは十人十色です。しかし理屈としてはわかっていても、実際に身近に博士課程の学生が少ない、あるいは博論の執筆に集中していると、ついそのことを忘れてしまいます。特にここ数年はコロナの影響もあり、顔を合わせて話し合う機会が少なくなっていました。したがって実際に先輩方や参加者の皆様と、研究の進め方やライフプランについて話し合うことができる本セミナーは、私にとって博論のみならず研究者としての在り方を深く考える貴重な機会となりました。

最後になりましたが、本セミナーに参加した学生の皆様、先生方、運営や事務に携わった AA 研の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。